

学校法人 加計学園

中期計画

2017～2021



2017年3月作成
2018年4月改定
2019年4月改定

学校法人加計学園 中期計画(2017年～2021年)の策定にあたって

学校法人加計学園は「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し 技術者として 社会人として 社会に貢献できる 人材を養成する」という建学の理念を掲げ、昭和36年9月に文部省(現:文部科学省)の認可を受け、これまでさまざまな分野での教育研究、学際領域の研究、高大連携教育、産学官金連携、海外の教育機関との国際交流による国際感覚の養成などにより人材養成を行って参りました。

我が国においては、経済再生と並ぶ日本国の最重要課題として、21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実行に移すことを目標に、「人づくりは、国づくり」と位置づけた教育再生実行会議で教育問題に取り組む中、私共もこの取り組みと連動し、来たるべき新時代に活躍できる人材養成に努めて行かなければなりません。

本学園は2011年に創立50周年を迎え、次の50年に向けて教育研究に取り組んでいるところですが、その歩みを確実なものとするため、この度、学園の使命(ミッションステートメント)を策定し、それに基づき岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、岡山理科大学附属中学校・高等学校、岡山理科大学専門学校、玉野総合医療専門学校がそれぞれに明確なビジョン(将来像)を策定し、これを達成するためのアクションプランを示すことにより、教職員が目標を共有することが可能となり、各学校が設置目標を踏まえ、時代と地域の要請に基づいたビジョンとアクションプランに沿った教育事業を展開することで建学の理念の具現化を図って参りたいと存じます。

中期計画における重点施策としては学校種等により異なりますが、教育面におきましては建学の理念に謳っている学生生徒の能力を最大限に引き出す「学生生徒の成長」を第一にした教育を展開します。そのためにはFDの推進により教育力を高めると同時に教育の質を向上させ、併せて時代と地域の要請に基づく研究を推進することで地域社会の発展に寄与すると共に教育で学生生徒へ還元し社会が求める能力を養う教育に取り組めます。

また、この教育研究事業を安定して持続発展させていくための財政基盤を確立するべく、設置校において数値目標を掲げ進捗管理ができる体制の構築を図ります。大学における認証評価が間もなく第3クールへ移行する過程で内部質保証が重要項目となり自主的・自律的な質保証への取組が求められていることから、本学園においても内部質保証を重要課題として捉え、教育研究、財政基盤及び組織マネジメントについて継続的に点検・評価し、自ら質の保証を行うとともに、不断の改善・向上に取り組んで参ります。

さらに学校法人として、法令や学園規程を遵守し社会からの信頼を一層得るために学園全体の内部統制システムの構築やガバナンス改革を図りコンプライアンスの推進による「自律」とステークホルダーへの積極的な情報公開による「透明性」を確保した学園運営に取り組んで参りたいと存じます。

学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として 社会人として
社会に貢献できる人材を養成する

ミッション

加計学園は、全ての人が生涯にわたって学べる
「教育の場」を提供し、
教育を通して科学する心を育み、調和のとれた
人格と国際性を涵養することによって、
世界の平和に貢献できる人材を輩出する。

中期計画

教育・研究力

- ・教育力の向上（FDの推進）
- ・教育の質向上
- ・一般・専門教育の充実
- ・研究力の向上
- ・外部資金の獲得
- ・国際化への対応
- ・入学者選抜方法の開発

学生・生徒支援

- ・修学・経済支援
- ・キャリア形成支援
- ・退学・転学抑制
- ・留学生支援
- ・多様な学生への支援
- ・キャンパス（教育環境）の充実

社会・地域連携&貢献

- ・地域社会と連携した教育・研究
- ・研究成果の地域還元
- ・地域ボランティア
- ・知的財産の活用

経営基盤・ガバナンス

- ・建学の理念の浸透と継承
- ・理事会機能の実質化
- ・経営基盤の確立
- ・広報戦略とブランディング
- ・組織マネジメント
- ・ガバナンス改革
- ・コンプライアンス

内部質保証

- ・自己点検・評価
- ・認証評価
- ・内部監査機能

学校法人 加計学園設置校



岡山理科大学

【理学部・工学部・総合情報学部・生物地球学部・教育学部・経営学部・獣医学部】



倉敷芸術科学大学

【芸術学部・生命科学部・危機管理学部】



千葉科学大学

【薬学部・危機管理学部・看護学部】



岡山理科大学附属高等学校

【全日制課程普通科・通信制課程】



岡山理科大学附属中学校



岡山理科大学専門学校

【工業専門課程・商業実務専門課程・文化・教養専門課程】



玉野総合医療専門学校

【医療専門課程・教育・社会福祉専門課程】

アクションプラン

—— 中期目標と中期計画 ——

目 次

学校法人加計学園設置校中期計画と目標総括

岡山理科大学……………1-1 ～ 1-6

倉敷芸術科学大学……………2-1 ～ 2-3

千葉科学大学……………3-1 ～ 3-4

岡山理科大学附属高等学校…4-1 ～ 4-2

岡山理科大学附属中学校…5-1 ～ 5-2

岡山理科大学専門学校……………6-1 ～ 6-3

玉野総合医療専門学校……………7-1 ～ 7-3

学校法人 加計学園 設置校中期計画の目標総括表

学校名 目標	岡山理科大学	倉敷芸術科学大学	千葉科学大学
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤教育の再構築 ・専門教育の充実 ・大学院教育の再構築 ・入学者選抜方法の開発 ・教育の質保証 ・教育の実施体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的教学マネジメント体制の構築 ・大学院教育の再構築 ・教育支援体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の組織的展開 ・入学前・リメディアル教育の充実 ・教学マネジメントの推進 ・大学院教育の充実 ・社会人の受入体制の整備 ・キャリア教育対策 ・帰属意識の高揚(同窓会組織)
研究・創作	<ul style="list-style-type: none"> ・世界レベルの研究推進 ・研究の重点化とブランド力向上 ・外部資金の獲得 ・地域と連携した研究推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・領域横断型研究の推進 ・外部資金の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金(科研費)の獲得 ・外部資金獲得の支援体制 ・新たなブランディング事業の推進
学生・生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・修学・生活支援 ・キャリア形成支援 ・多様な学生への支援 ・正課外活動の活性化 ・学生支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の整備 ・学生生活活性化の支援 ・就職支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援体制の充実 ・経済支援体制の整備 ・就職支援体制の強化 ・学生生活支援
国際化	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に対応した教育・学生支援 ・日本人学生の海外留学 ・留学生受入促進 ・質の高い国際交流の推進体制 ・キャンパスの国際化 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研究者との交流 ・海外留学と留学生受入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生支援の強化(再掲)
社会連携・貢献 地域連携・貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の活性化・課題解決 ・教育機関との連携・協力 ・地域連携推進体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム(拠点)形成 ・拠点間での共同研究・人事交流 ・高大接続改革 ・地域ボランティア活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携の中核的役割の推進 ・知の拠点事業の実施 ・地方創生推進の実施
組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・方針に基づくガバナンス体制 ・教員の組織編成と能力開発・評価 ・職員の人材育成システム ・入学者数比率及び在籍学生数比率 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な大学運営(教職協働) ・FD&SDの推進と体制構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・実効性のある教学マネジメント ・大学マネジメント体制の強化 ・事務業務の効率化 ・危機管理体制 ・FD&SDの推進 ・教職員の自己点検制度の確立
内部質保証	<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証システムの確立 ・情報の収集と分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証の検証体制の構築 ・外部有識者の参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証システムの構築・運用
教育研究環境	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究環境の充実 ・安全衛生管理体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援のための教育環境整備 ・施設設備の点検評価基準の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス整備
運営基盤 財政基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・財務基盤の安定化 ・広報・ブランディング戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤の確立 ・広報機能とブランド力強化 ・入学者選抜体制の改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的広報対策 ・入学者確保と退学抑制
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教育研究事業の展開 		<ul style="list-style-type: none"> ・学部学科構想(再掲)

学校名 目標	岡山理科大学附属 高等学校	岡山理科大学附属 中学校	岡山理科大学専門学校	玉野総合医療専門学校
教育	・人材育成と教育力	・人格形成と学力育成	・社会人基礎力の養成 ・専門教育の充実 ・専攻科・研究科の教育内容 ・入学者選抜方法の開発 ・教育の質保証 ・資格取得率の向上	・カリキュラムの充実化 ・入学者選抜方法の検討 ・教育の質保証
研究・創作			・研究の重点化とブランド力 ・附帯事業の効率化	・研究活動の推進
学生・生徒支援	・正課外活動支援 ・多様な学生への支援	・生徒支援体制の強化	・修学・生活支援 ・キャリア形成支援 ・多様な学生への支援 ・正課外活動支援 ・学生支援体制	・学習支援の強化 ・生活支援体制
国際化	・国際理解と国際貢献	・国際理解と国際力向上	・留学生受入体制	・国際交流事業の推進 ・海外研修の推進
社会連携・貢献 地域連携・貢献	・高大連携の推進 ・社会連携の推進		・地域社会交友 ・関連企業・団体との連携	・地域・社会との連携活動
組織・運営	・組織力の向上	・組織力の向上	・ガバナンス体制の構築 ・教員の能力開発 ・教員の人材育成システム	・学校運営組織の向上
内部質保証	・内部質保証システム 体制の確立	・内部質保証システム 体制の確立	・内部質保証システムの確立 ・情報の収集と分析	・自己点検評価の実施 ・第三者評価の導入
教育研究環境			・教育環境の充実 ・安全衛生管理体制の構築	・学習環境の整備計画
運営基盤 財政基盤	・生徒の安定確保 ・補助金の獲得	・志願者増加への方策	・財務基盤の安定化 ・広報・ブランディング戦略	・財務状況の安定化 ・情報発信力方法の検討
その他			・学科再編と新事業展開	

岡山理科大学アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
基盤教育の再構築に関する目標 初年次から二年次へ至る教育を「人間形成のための基盤教育」として体系化し整備する。	基盤教育の再構築に関する目標を達成するための計画 (1) 学生の学びの基礎力を高めつつ各専門領域への学びへ誘う体系化された初年次教育プログラムを構築する。 (2) 学部を問わず学生の科学リテラシーを涵養するため、「現代人の科学」などの科学技術教育科目の充実を図る。 (3) ジェネリックスキルを修得するための系統だったプログラムを構築する。
専門教育の充実に関する目標 基盤教育との連携を密にして各学部・学科の専門教育を展開し、人間力と専門的知識・技能を兼ね備えた人材を育成する。	専門教育の充実に関する目標を達成するための計画 (1) 基盤教育の整備と合わせ、専門教育カリキュラムを見直し、基盤教育と専門教育を一体化し、アドミッション・ポリシーからディプロマ・ポリシーに至る体系化された学士課程教育に再編する。 (2) 専門分野を越え、幅広い見識や人間関係を構築する能力を涵養するため、プロジェクト科目を充実させる。 (3) 多様な国々・地域からの留学生に対応しキャンパスのグローバル化を推進するため、異文化理解や英語発信能力を向上させる科目を充実させる。 <div style="text-align: right;">【再掲有り_国際化】</div> (4) 学士課程と大学院修士課程を5年で修了可能な一貫制度を設置し、専門教育の充実を図る。
大学院課程教育の再構築に関する目標 大学院課程教育における到達目標(ディプロマ・ポリシー)とカリキュラム・ポリシーを明確に定め、体系化された教育を実現するとともに、大学院学生の確保に努める。	大学院課程教育の再構築に関する目標を達成するための計画 (1) 修士課程・博士課程において4つのポリシーを策定して到達目標を明確にし、カリキュラムの体系化を図る。 (2) 学部生が積極的に大学院に進学するよう、大学院修了生のキャリアパスを明確に示す。 (3) 社会人を対象とした長期履修制度を導入する。
入学者選抜方法の開発に関する目標 アドミッション・ポリシーに基づき、本学での学びに必要な素養を備え、かつ多様な能力を持つ人材を広く受け入れることができる入学者選抜方法を開発する。	入学者選抜方法開発のための計画 (1) 平成34年度からの高等学校教育課程変更を見越し、学力の三要素を多面的・総合的に評価する新たな入学者選抜方法を開発し、実施体制を整える。 (2) 岡山理科大学附属高等学校をモデル校として、高大連携教育に基づく「育てる入試」を開発する。
教育の質保証に関する目標 3つのポリシーに基づく活動を評価・改善するためにアセスメント・ポリシーを設定するとともに、学修記録の導入などにより学修成果を可視化する。	教育の質保証の目標を達成するための計画 (1) カリキュラムアセスメントの手法を決定し、それに基づいてカリキュラム・チェックを実施するとともに、3つのポリシーの適切性を評価・改善する。 (2) 多面的な成績評価を実施するとともに、卒業研究等において、ルーブリックの利用等により成績評価の客観化と厳正化を進める。 (3) 入学から卒業までの成長、学修成果を総合的に可視化し、卒業後も活用できるトータルキャリア・ポートフォリオを導入する。
教育の実施体制に関する目標 本学の掲げる教育目標を達成するために、全学的な企画・立案機能、情報収集・提供機能を強化するとともに、全学と各学部・学科が有機的に連携できる体制を築く。	教育の実施体制に関する目標を達成するための計画 (1) 教育の質向上へのアクションを迅速に起こすために、全学的な企画・立案機関として「教育改革会議」を置き、各学科にはカリキュラムの編成、教育内容の改善などの活動において中核的な役割を担う「教育ディベロッパー」を配置して協働して活動する。 (2) 教育開発センターにおいて、アクティブ・ラーニングなどの教育や授業の質向上に有用な情報・技術を収集し、それらをワークショップや研究会等を通して教職員に提供する体制を整備する。 (3) 基盤教育を推進する全学的体制を整備する。教職協働体制の実質化を行う。

(研究・創作項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
世界レベルの研究推進に関する目標 世界レベルの研究を推進するために、海外での研修や共同研究を充実させるとともに、海外での研究拠点形成やネットワーク形成を図る。	世界レベルの研究推進に関する目標を達成するための計画 (1) 海外との研究交流を推進するために、アジアをはじめとする大学や研究機関との交流協定を締結し、共同研究のための拠点を形成する。 (2) 教職員や学生の短期および長期の研修、海外の研究者との共同研究を充実させる。 【再掲有り__IV国際化】 (3) 海外への研究に関する情報発信を強化するため、ホームページの国際化を推進する。
研究の重点化やブランド力の向上に関する目標 社会的要請の高い課題解決プロジェクトを推進し、大学のブランド力の向上を目指すために、優れた研究課題に対してプロジェクトチームを編成して取り組み、研究の重点化・拠点化を図る。	研究の重点化やブランド力の向上に関する目標を達成するための計画 (1) 岡山理科大学プロジェクト研究推進事業や私立大学研究ブランディング事業に選定された研究グループに対する支援体制を充実させる。 (2) URA(研究マネジメント人材)を配置し、学内の知財や研究シーズの収集および基礎研究から応用研究までの研究構想を一貫してマネジメントできる体制を構築する。 (3) 附属研究所およびセンターを再編し、先端的な研究を推進できる体制を構築する。
外部資金の獲得に関する目標 科研費および各種団体の研究助成金などの獲得を支援する全学的な取り組み体制を整備する。	外部資金の獲得に関する目標を達成するための計画 (1) 科学研究費及び各種団体の大型研究助成金を獲得するための申請書のブラッシュアップ制度を充実させる。 (2) 外部資金の公募情報や採択状況を一元的に把握し周知するシステムを構築する。
地域と連携した研究推進に関する目標 本学が有する高度な学術的成果を、社会に向けて発信するためのシステムを構築するとともに、社会的ニーズを的確に把握して、学内研究者に周知する体制を構築する。	地域と連携した研究推進に関する目標を達成するための計画 (1) 産学官連携に関する研究成果を公開するとともに、研究者のアウトリーチ活動の支援体制を整備し、研究内容や成果を地域社会に発信する。 (2) 企業や自治体などのニーズを収集し、それを学内研究者に迅速に情報提供する体制を整備する。 【再掲有り__社会・地域連携・貢献】

(学生支援項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
修学・生活支援に関する目標 学生が初年次において大学での学びや生活に魅力を感じ、新しい仲間と活気ある学生生活が開始でき、在学期間を通じて学修や生活において自己管理を行い、成長が実感できるよう支援する。	修学・生活支援に関する目標を達成するための計画 (1) フレッシュマンセミナーなど初年次教育を充実するとともに、グループワークや研修など早期に仲間ができる機会を設ける。 (2) ラーニングcommonsやスチューデントcommonsなど仲間との交流や議論を通して相互啓発するcommons空間を整備するとともに、学生・教員が積極的に活用する体制作りや広報活動を行う。
キャリア形成支援に関する目標 学生ひとりひとりの進路や将来像を確認できる機会を、初年次から適切に提供し、学生のキャリア形成の意識を顕在化させ、卒業までに職業人としての自覚を形成するよう支援する。	キャリア形成支援に関する目標を達成するための計画 (1) 正課のキャリア教育科目と正課外のキャリアガイダンス・就職イベント・就職相談との両輪で、学生自身のキャリア形成過程の確認ができ、そして学年進行と学部・学科の特徴を反映させた支援を実施する。 (2) インターンシップ、コーオプ教育等の充実によって社会経験を積む機会を拡充するとともに、企業・業界研究の機会を増やすことことで、「自己分析に基づく職業・進路選択」から「自分がやりたいこと、得たいスキルに基づく職業・進路選択」へ就活期の学生の意識を変革する。

<p>多様な学生への支援に関する目標</p> <p>障がい学生や留学生など多様な学生が円滑に学生生活を開始し、安心して学生生活を送ることができるよう支援する。</p>	<p>多様な学生への支援に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)入試広報センター、学生支援センター、 教学支援センター、各学科が連携を密にし、入学前から障がい学生や留学生が安心して学生生活を開始できるよう支援するとともに、講義担当教員と遅滞なく必要な情報を共有できる体制を築く。</p> <p>(2)障がい学生を支援する人材の確保を目的としたサポート体制や留学生を支援する学生パートナーシステムを構築する。</p> <p>(3)障がい学生への合理的配慮に伴う教育環境を整備する。</p> <p style="text-align: right;">【再掲有り_教育研究環境】</p>
<p>正課外活動の活性化に関する目標</p> <p>正課外教育を大学教育の一つの柱として位置付け、学生が正課外活動に意欲的に取り組めるようハード面、ソフト面から支援する。</p>	<p>正課外活動の活性化に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)学生が正課教育および正課外の活動によって総合的に身に付けることが期待される能力を明確に定義し、学内外に周知する。</p> <p>(2)サークル活動、地域ボランティア、学外学修プログラム、ものづくりプロジェクトなど様々な正課外活動を活性化するために、情報や場の提供、施設整備や経費補助制度を強化するとともに、それらの活動成果を学内外に発信する。</p> <p>(3)サークル活動に対する支援体制の充実および安全性の確保のため、学生および顧問教員を対象とした講習会や活動報告会を定期的に開催するとともに、学友会活動の充実を図る。</p>
<p>学生支援体制に関する目標</p> <p>学生支援の質と即時性を向上させるために、学生からの相談や意見などを窓口等で適切に聴取し、迅速に対応できる体制を構築する。</p>	<p>学生支援の体制に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)学生からの相談、要望、意見、苦情などを受付窓口などで適切に対処し、速やかに関連部署との連携や情報共有を図り、迅速に対応・回答する体制やシステムを構築する。</p> <p>(2)ポータルサイトやWebページの充実化、手続きのオンライン化など情報通信技術を活用して、学生や保護者への迅速な 情報提供や、大学との情報交換システムを構築する。また、各種奨学金、「岡理 GAP」(長期学外学修プログラム)、海外研修など学生への募集や周知方法を改善し、応募数の増加を図る。</p>

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>グローバル化に対応した教育・学生支援に関する目標</p> <p>グローバル感覚を備えた人材育成するための教育・学生支援体制を構築する。</p>	<p>グローバル化に対応した教育・学生支援に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)多様な国々・地域からの留学生に対応しキャンパスのグローバル化を推進するため、異文化理解や英語発信能力を向上させる科目を充実させる。【再掲】</p> <p>(2)グローバル教育センターと学生協議会・学友会とが連携し、留学生支援も視野に入れたグローバル化に関するイベント企画を実施する。【再掲有り:国際化】</p> <p>(3)IB 教育をはじめとする世界標準の教育法を教職員に提供する体制を整備する。</p> <p>(4)教職員や学生の短期および長期の研修、海外の研究者との共同研究に対する支援制度を充実させる。【再掲】</p>
<p>日本人学生の海外留学に関する目標</p> <p>本学および学園が締結した協定校との連携を図り、日本人学生の長期・短期の海外留学・研修を促進する。</p>	<p>日本人学生の海外留学に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)長期学外学修活動に備え、「岡理GAP」の導入版として協定校での海外短期研修を企画・実施する。</p> <p>(2)ギャップイヤーを活用した学生の海外活動を促進するため、長期学外学修活動を支援する「岡理 GAP」補助制度を拡充する。</p>

<p>留学生受入促進に関する目標</p> <p>入学から卒業・就職までの一貫した留学生支援体制を整備する。</p>	<p>留学生受入促進に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)留学生別科学生の教育・指導體制を充実させる。 (2)ボランティアを募り、来日時や長期休暇中の短期ホームステイ制度を策定する。 (3)グローバル教育センターと学生協議会・学友会とが連携し、留学生支援も視野に入れたグローバル化に関するイベント企画を実施する。【再掲】</p>
<p>質の高い国際交流の推進体制に関する目標</p> <p>法人本部国際交流局と連携しながら本学の国際交流を推進する体制を整備するとともに、協定校との交流内容を向上させる。</p>	<p>質の高い国際交流の推進体制に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)協定校との交流内容を精査し、グローバル化に有益な「コア・スクール」を選定し、学生のニーズに応じた具体的な交流事業を策定する。 (2)法人本部国際交流局と本学の各国際交流担当部署(グローバル教育センター、学生支援室、教育連携支援課)の役割を明確化し、学生が国際交流に関する窓口を認識できる体制を確立する。</p>
<p>キャンパスの国際化に関する目標</p> <p>グローバル拠点として不断に異文化理解や国際交流が行われるようキャンパス環境を整備する。</p>	<p>キャンパスの国際化に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)日本人学生と留学生が日常的に交流できる場(インターナショナル・カフェなど)を設置し、キャンパスのグローバル化を促進する。 (2)学内掲示物について、英語等併記などの表記方法を推進する。 (3)情報発信として英語によるHPやパンフレットの充実を図る。 (4)日本人学生と留学生が混住できる学生寮建設のプランニングをする。</p>

(社会・地域連携・貢献項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>地域社会の活性化・課題解決に関する目標</p> <p>大学の知的資源や人材を活用して、地域社会が抱えている課題に対して地域と協働して取り組み、新しい価値を創出する。</p>	<p>地域社会の活性化・課題解決に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)大学と地域企業が協働して取り組み、産業イノベーションなど新しい価値を創出する産学連携プロジェクトを提案し、実施する。 (2)地域のニーズと学内のシーズをマッチングさせ、新たな共同研究等に取り組む。 (3)学生・教職員が地域住民と協働して、ボランティア活動、街おこしプロジェクトの企画、ニューツーリズムの開発、特産品の商品化等によって地域コミュニティを活性化させる取組を推進する。</p>
<p>教育機関との連携・協力に関する目標</p> <p>大学間連携、高大連携、小中学校との連携を強化し、地域の教育研究の発展に寄与する。</p>	<p>教育機関との連携・協力に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)大学コンソーシアム岡山で行っている各種事業を中心に大学間連携を推進するとともに、個別大学との協働による教育研究の活性化に取り組む。 (2)高大連携校と意見交換の場を持ち、連携内容を高度化する。また、小中学校に対して教員研修への教員派遣などの教育支援を実施する。 (3)大学図書館の利用拡大、大学施設の開放、市民公開講座の充実など、地域住民が大学の持つ知的・人的・物的資源を有効に活用できる場を提供する。</p>
<p>地域連携推進体制に関する目標</p> <p>地域連携の実質化と質向上のために、地域連携を迅速かつ的確に推進できる体制を整備する。</p>	<p>地域連携推進体制に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)企業や自治体などのニーズを収集し、それを学内研究者に迅速に情報提供する体制を整備する。【再掲】 (2)包括連携協定を締結している行政機関それぞれと定期的な意見交換を行い、相互のニーズを把握して実質的な連携・協力を実施するための体制を整備する。 (3)愛媛県及び今治市との連携を密にし、教育・研究・学生活動のフィールドを拡げるとともに、多様な活動を通じて相互の信頼関係を構築する。</p>

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>方針に基づくガバナンス体制の構築に関する目標</p> <p>方針に基づき、責任体制(ガバナンス体制)を明確にして、大学運営が適切に行われる体制を整える。</p>	<p>方針に基づくガバナンス体制の構築に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)「建学の理念」、「大学の目的」を踏まえ各種「方針」の見直しと整備を行い、各組織の役割と機能を明確にする。</p> <p>(2)方針に基づき、学長を中心とした的確な意思決定を行うため、学長及び各組織の長の権限と責任を明確にする。</p> <p>(3)各部署において機動的な業務執行が行えるよう教育研究組織、事務組織を改編し、その効果を検証する。</p> <p>(4)今治キャンパスと岡山キャンパスとの連携体制を整備し、設置理念に基づいた教育研究を遂行するとともに、評価・改善を図りながら教育の質向上に組織的に取り組む。</p>
<p>教員の組織編成と能力開発・評価に関する目標</p> <p>教員人事制度の再構築によって、教育の継続的な改善、質向上を図る。</p>	<p>教員の組織編成と能力開発・評価に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)教員組織編成方針、大学の求める教員像を明確に定めた上で、採用昇任選考基準の明文化等、方針に沿った戦略的な人事を推進する仕組みを整える。</p> <p>(2)大学の求める教員像に沿い、教員として求められる資質能力を明確にした上で教育の質向上のためのFDを組織的に展開する。</p> <p>(3)教員の教育業績やビジョンに沿った取組を適正に評価し、改善に繋げるための評価制度を構築する。</p>
<p>職員の人材育成システムに関する目標</p> <p>大学職員育成ビジョンや各部署の目標に基づき、個々の職員の目標を確化した上で、能力開発、評価、昇任等が連動した人材育成システムを構築する。</p>	<p>職員の人材育成システムに関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)大学職員育成ビジョン、目指すべき職員像に基づき、職員として求められる能力の向上を目的とした各種研修制度を構築し、成果を検証する。</p> <p>(2)職員一人ひとりのこれまでのスキル、経験を可視化し、個々の目標と取組に関して部署内で共有、把握するため職員ポートフォリオの導入や「進化する自己点検・職員勤務考課」の改善を提案し、運用を開始する。</p> <p>(3)職員の採用・昇任基準を法人本部と協働して策定し、規程を整備する。</p>
<p>入学者数比率及び在籍学生数比率に関する目標</p> <p>各学部・学科、各研究科における入学者数比率及び在籍学生数比率の適正化を図る。</p>	<p>入学者数比率及び在籍学生数比率に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)各学部・学科における過去4年間並びに過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の適正化を図る。</p> <p>(2)各学部・学科、各研究科における収容定員に対する在籍学生数比率の適正化を図る。</p>

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>内部質保証システムの確立に関する目標</p> <p>教育及び大学運営の質向上のため、機構、学部、研究科、事務部署が一体となって自律的な内部質保証システムを確立し、定着させる。</p>	<p>内部質保証システムを確立に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)全学の内部質保証システムを機能させるために、内部質保証の責任体制として全学評価・計画委員会を設置し、内部質保証のプロセスを明示して全学の仕組みや方針を策定する。</p> <p>(2)内部質保証の方針に基づき、全学レベル、部局レベルにおけるPDCAサイクルを的確に機能させるためのプロセスと仕組みを構築する。</p> <p>(3)内部質保証システムの有効性を検証するために、外部評価を受ける。</p> <p>(4)2020年度に認証評価を受審し、大学全体の評価を受ける。</p>
<p>情報の収集と分析に関する目標</p> <p>教育、大学運営の質向上に資するため、情報の収集と分析に基づく点検評価、改善を推進する体制を構築する。</p>	<p>情報の収集と分析に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1)大学運営上の課題を可視化し、改善、改革に役立てるため、各部局、部署が保有する情報を把握し、的確な分析を行うための効果的なIR体制を構築する。</p> <p>(2)外部での研修や学内のSD活動により、部門ごとに必要な情報を整理、分析、企画提案ができるIRの観点を持った職員を養成する。</p>

(教育研究環境項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>教育研究環境の充実に関する目標</p> <p>教育研究環境の整備に関する方針に基づき、より充実した教育研究の場を提供するための整備を計画的に行う。</p>	<p>教育研究環境の充実に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) 既存建物の耐震診断を実施し、その結果を踏まえて建物の新改築計画を策定する。</p> <p>(2) 建物の老朽化に伴い、トイレ、空調、エレベータを改修するため、学内整備計画を策定し、緊急性の高いものから実施する。</p> <p>(3) スポーツ施設等の改修・整備計画を策定し、緊急性の高いものから実施する。</p> <p>(4) 教育研究環境の整備に関する方針(学生自らが進んで学修に向かう環境を整え、時代を先取りした研究と最先端の教育を可能にする教育研究環境を整備する体制を構築する)に基づき、教育研究環境を整備する。</p>
<p>安全衛生管理体制の構築に関する目標</p> <p>労働安全衛生法に則った安全衛生教育を実施し、安全衛生管理体制を構築し、学内の環境安全を図る。</p>	<p>安全衛生管理体制の構築に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) 労働安全衛生法に則り、教職員・学生に対する安全衛生教育の実施、職場巡視による環境整備、薬品及び危険物の管理体制並びに化学物質リスクアセスメントによる安全管理体制を強化する。</p> <p>(2) 障がい学生への合理的配慮に伴う教育環境を整備する。【再掲】</p>

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>財務基盤安定化に関する目標</p> <p>収支状況のモニタリングに基づく改善計画の策定や、積極的な収入増加策を的確に講じることにより、安定的な財務基盤を確立する。</p>	<p>財務基盤安定化に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) 人件費比率、寄付金比率等の指標と各年度決算とを比較し、乖離があればその原因を分析するとともに、改善計画を策定する。</p> <p>(2) 予算の重点配分を適正に実施するために、学長裁量経費、公共優先予算の定義づけ、更なる有効な活用法を考案する。</p> <p>(3) 恒常的な寄付金受け入れ体制を整え、寄付金収入の増大を図る。</p> <p>(4) ビジョン、アクションプランに基づく事業計画に対応した中長期財政計画を策定する。</p>
<p>広報・ブランディング戦略に関する目標</p> <p>教育研究上の特色、学生の活躍等をステークホルダーに戦略的かつ効果的に広報することにより、本学のブランディングを強化する。</p>	<p>広報・ブランディング戦略に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) ブランディング事業「たん Q くんによる中期ブランディング戦略」を継続して、科学の面白さ、岡山理大の研究力などの情報発信を行い、本学のブランド力を高める。</p> <p>(2) インターネットを活用した募集広報に重点をおき、受験生に「志望分野を見つけよう」広報を行う。</p> <p>(3) ホームページを受験生中心の構成から大学の活動全体を社会へ発信する構成に改良し、併せて運用体制の見直しを図る。</p>

(その他項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
<p>新たな教育研究事業の展開に関する目標</p> <p>岡山を中心として展開してきた教育研究事業を拡大し、新たな学部や教育研究拠点を設置する。</p>	<p>新たな教育研究事業の展開に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) 獣医師の養成機関のない四国に、国家戦略特区の諮問会議で決定された「先端ライフサイエンス研究や地域における感染症対策など、新たなニーズに対応する獣医学部」を愛媛県今治市に設置する。</p> <p>(2) 完成年度を迎える学部学科を基礎とした大学院研究科の設置構想も含め、大学院組織の将来構想を策定する。</p> <p>(3) 2022年度実施に向けて、受験生目線を優先させた学部・学科改組を行う。</p>

倉敷芸術科学大学アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
教育に関する目標 人間教育を重視する大学として必要な教育支援体制を充実・強化し、教育課程の検証・改訂体制を確立する。	教育に関する目標を達成するための計画 (1)全学的教学マネジメント体制の構築 ①学修成果(ラーニングアウトカムズ)の達成状況を検証する体制を確立する。 ②教学組織の再編や既存学部学科の見直し、他機関との連携を含めた弾力的な組織づくりをする。 (2)大学院教育の再構築 ①定員規模を見直すとともに、将来の方向性を明確にするために抜本的な大学院組織改革に取り組む。 (3)教育支援体制の充実 ①教育業績の評価に取り組み、優れた教育業績に対する適切な評価体制を構築する。

(研究・創作項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
研究・創作に関する目標 芸術と文化の街という倉敷の世界的なイメージを大切に、地(知)の拠点「COC」大学として、教育・研究成果を発信する拠点となる。	研究・創作に関する目標を達成するための計画 ①「芸術と科学の協調」に沿う研究など、領域を横断した総合研究を大学として全面的に推進・支援する。 ②結果としての科学研究費や外部資金の確保など、目に見えるかたちでの社会的評価を得る。

(学生支援項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学生支援に関する目標 学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる教育環境を整備するとともに勉学に専念し、有意義な学生生活を送ることができるよう、修学支援・生活支援・進路支援体制を構築する。	学生支援に関する目標を達成するための計画 (1)学習支援のための教育環境の整備 ①学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる学習支援の場を設定する。 ②障がいを持つ学生に対する実効性のある支援体制を充実させ、学習環境を整備する。 (2)学生生活の活性化に向けた支援の充実 ①学生のキャンパスライフを充実させるために、部活動等の課外活動の支援体制を強化する。 ②学生関連情報等を統一管理するシステムに学生自己評価・診断システムを組み込む。
就職支援の充実に関する目標 就職に強い大学として、保護者および高校から一定の評価を受けるような取り組みを実行する。	就職支援の充実に関する目標を達成するための計画 ①教員の全面的協力を取り込む体制作りを行う。 ②キャリア形成力や就業力を向上させるために、教育的効果の高いインターンシップ(就業体験)を積極的に推進、充実させる。

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
国際的競争力の強化に関する目標 倉敷のブランド力を活かし、研究・創作活動の国際的競争力の強化を目指す。	国際的競争力の強化に関する目標を達成するための計画 ①海外の研究者やアーティストとの交流を積極的に行う。 ②在学生の留学を促進するとともに、優れた留学生を確保する。

(社会・地域連携・貢献項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
社会連携に関する目標 倉敷の芸術・文化の継承と地域創生を目的として、地域社会との連携を強化する。	社会連携に関する目標を達成するための計画 ①提携高校、他大学、地場経済界、自治体からなるプラットフォーム(連携拠点)を形成する。 ②地域プラットフォーム(連携拠点)間での共同研究、人材相互交流等を推進する。
高大接続(連携)改革に関する目標 教育・研究成果を社会に発信し、地域社会の活性化に寄与する。	高大接続(連携)改革に関する目標を達成するための計画 ①提携高校との教員およびカリキュラム交流を強化し、地域における高等教育の体系的な教育プログラムの整備を行う。 ②地域でのボランティア活動、まちづくりプロジェクト等の体験活動を推進し、卒業生の地域への定住化を促進する。

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
経営基盤の安定化に関する目標 大学の継続性に寄与する最大の要素は、地域における一定の肯定的なブランドイメージ及び信頼感である。これらを確立するために、最大限の努力を払う。	経営基盤の安定化に関する目標を達成するための計画 (1)組織的な大学運営 ①全学的な教職協働体制を整備する。(各種委員会位置付け再編) ②全学的な危機管理体制及び事業継続計画(BCP: Business Continuity Planning)を整備すると共に、リスクマネジメントに関する諸規程を整備する。 ③収入に対する人件費比率適正化にむけ、教員の採用計画の策定、教員定数等の設定を行う。
教職員の能力開発に関する目標 教職員の能力点検・評価、育成・能力向上を確認、検証する。	教職員の能力開発に関する目標を達成するための計画 ①教職員が適切な能力を有していることを確認するための点検・評価や、教職員の育成・能力向上のための方策を策定し、計画的にFD、SD研修を実施する体制や仕組みを構築する。

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
内部質保証に関する目標 内部質保証に関する全学の方針を定め、責任体制を明確にする。	内部質保証に関する目標を達成するための計画 ①アクションプラン自体の進捗状況や有効性、効率性をチェックし、方針・規程・計画改訂等を定期的に確認検証する体制を構築する。
質保証への外部関係者の関与に関する目標 各種内部質保証検証において、定期的な外部意見聴取の機会を設ける。	質保証への外部関係者の関与に関する目標を達成するための計画 ①外部関係者の参加や意見聴取により、質保証の客観性や専門性を確保し、公平で質の高い点検評価を実施するための仕組みを構築する。

(教育研究環境項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学生支援に関する目標 学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる教育環境を整備するとともに、勉学に専念し、有意義な学生生活を送ることができるよう、修学支援・生活支援・進路支援体制を構築する。	学生支援に関する目標を達成するための計画 (1)学習支援のための教育環境の整備 ①学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる学習支援の場を設定する。 ②障がいを持つ学生に対する実効性のある支援体制を充実させ、学習環境を整備する。
学習環境や学生支援の点検・改善に関する目標 学習環境や学習支援・生活支援などを向上させる。	学習環境や学生支援の点検・改善に関する目標を達成するための計画 ①施設・設備等に関する点検・評価の項目や基準を設定し、改善を継続的に実施する体制や仕組みを構築する。

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
経営基盤の安定化に関する目標 大学の継続性に寄与する最大の要素は、地域における一定の肯定的なブランドイメージ及び信頼感である。これらを確立するために、最大限の努力をはらう。	財政基盤の安定化 ①内部資源の見直しや外部資源との連携を図ることで広報機能の強化・ブランドの確立を目指す。 ②経費抑制に向け、中期的な予算戦略を立案し、予算編成・配分など現行の仕組みを見直す。 ③入試の変革、入学者選抜体制の改革を行い、入学者の確保を目指す。 ④寄付金を含む外部資金獲得の増加を目指す。 ⑤学生納付金収入以外の収入の多様化に向け、本学の遊休施設、設備等々の有効利用を策定する。

千葉科学大学アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
大学の教育改革に関する目標	<p>初年次教育の組織的展開 学士課程教育の一環として、適切な初年次教育を組織的に展開することにより、高校教育から大学教育への円滑な移行、すなわち、受動的な学習態度から能動的で自律的な学習態度への転換がスムーズに行われており、カリキュラムポリシーに基づく学科基礎科目や専門科目の修得においても効果的に機能している。</p> <p>入学前・リメディアル教育の充実 種々の入学選抜制度で入学してくる学生の学習レベルの多様性を鑑みて、効果的な入学前教育を実践するとともに、必要に応じてリメディアル教育プログラムを展開することにより一定水準の学習レベルが担保されている。</p> <p>実効性のある教学マネジメントの推進 各学部・学科で明確に示されたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをアセスメントポリシーに基づいて定期的に見直しながら、多様なニーズ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実、教育の質保証を目指した教学マネジメントが適切に機能している。</p> <p>キャリア教育対策 本学独自の体系的なキャリア教育を確立し、学生に対して入学時から始めるキャリア教育を通して、自分の将来の進路に対する明確な目的や意志を持ちながら様々な課題に柔軟かつ逞しく対応し、卒業後、社会人として自立している。</p> <p>愛校心(帰属意識)の高揚教育・育成 卒業した先輩達の活躍や業績を見聞したり、銚子や近隣地域の歴史等に関わる教育を通して、本学に対する愛校心やプライドが育まれ、強固な人的同窓ネットワークが構築されている。</p>
大学院の教育改革に関する目標	<p>大学院教育の充実 体系化された大学院教育プログラムに基づいて教育がなされ、大学院修了生のキャリアパスも明確に示されており、研究志向の高い学生が毎年一定数、大学院へ進学している。</p> <p>社会人の受け入れ体制の整備 社会人を対象とした大学院教育プログラムの充実や様々な支援策など、社会人の受け入れ体制を整備することにより社会人に対する門戸が広がり、社会人学生が一定数在籍している。また、修了生はその成果を社会へ還元するとともに活躍が期待されている。</p>

(研究・創作項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
研究活動の推進・充実に関する目標	<p>研究活動に係る補助金(科研費等)の積極的な獲得 研究活動に係る補助金(科研費等)を積極的に獲得し、多くの教員が研究活動を推進しており、国内外の学会等での研究成果発表だけでなく、学術雑誌への論文投稿も活発に行われている。</p> <p>外部資金獲得のための環境整備 外部資金獲得のためのスタートアップとなる研究支援制度の整備や申請書のレビューなどのサポート体制などの環境が整備されており、外部資金の獲得につながっている。</p>
本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標	<p>「好適環境水」等の新技術を応用したブランディング事業の推進 「好適環境水」等の新技術を応用したブランディング事業などの成果により、本学独自のいくつかの研究分野において、国内外から本学が重要な研究拠点として認識されている。</p>

(学生支援項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学習支援体制の充実に関する目標	学生ポートフォリオシステムの効果的活用による学習支援策の充実 学生の学修履歴を入学時からすべて把握することができる学生ポートフォリオシステムを活用して学修履歴を可視化することにより、アセスメントポリシーに基づき、学生一人ひとりに対する効果的できめ細かい学習支援体制が確立され機能している。
経済支援制度の整備・充実に関する目標	効果的な経済的支援策(奨学金制度等)の整備・充実 奨学金制度等の経済的な支援策が整備され、支援が必要な学生に効果的に適用され、経済的な理由による退学や休学者が減少するとともに、勉強意欲のある学生に対して、アルバイト等の負担軽減により学業に集中できる環境が提供されている。
就職支援体制の強化に関する目標	戦略的就職支援策の整備 学生の就業力を高められる戦略的な就職支援対策が整備され、全ての学科において就職希望者に対して高い就職率を維持することができている。また、学生のニーズや就職先のニーズ等を考慮したマッチングを行うことで低い離職率を保っている。 公務員試験対策の強化・合格数増加 公務員試験対策の強化や学生に対する動機づけ対策などを充実させ、毎年一定数以上の合格者を出し、合格率は全国平均を上回る好成績を維持している。 国家試験対策の充実・合格数増加 薬剤師や看護師等の国家試験対策を充実させ、毎年一定数以上の合格者数を出し、合格率は全国平均および近隣大学の合格率を上回る好成績を維持している。
学生生活の支援対策の整備に関する目標	留学生支援の強化 世界各地から来ている留学生に対する支援体制が整備されており、安心・安全で充実した学生生活を送れており、留年や退学者を最小限に止めている。【再掲有り:国際化】 キャンパス整備 「安心・安全」、「癒し・憩い」、「活気」をキーワードとしたコンセプトに基づいたキャンパス整備が進み、喫食環境・コミュニケーションスペース等の整備など、機能的で競争力のあるキャンパスになっており、学生に対して満足度の高い教育環境が提供されている。

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学生生活の支援対策の整備に関する目標	留学生支援の強化 世界各地から来ている留学生に対する支援体制が整備されており、安心・安全で充実した学生生活を送れており、留年や退学者を最小限に止めている。【再掲】

(社会・地域連携・貢献項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
積極的な学外連携プロジェクトの展開に関する目標	産学官連携の中核的役割の推進 銚子市を始めとする本学近隣地域の行政・産業界と連携し、地域の経済・社会・雇用・文化の発展等に寄与する研究が展開・推進されており、大学が地域社会における様々な産学官連携プロジェクトの中核となっている。
地域活性の核となる知の拠点の形成に関する目標	地(知)の拠点整備事業(COC)の実施 地(知)の拠点整備事業(COC)を通して『防災教育と郷土教育を積み上げ、人に優しく安心して住める地域創り』が進んでおり、大学が地域活性の中核を担う存在として、地場産業の振興や人材の育成に寄与し、地域の諸問題解決のための一助となっている。
「地育・地就」実現のための環境整備に関する目標	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の実施 千葉大学を中心とする『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)』に積極的に協力することによって地域に魅力ある就職先が創設され、県内の人口減少・若年層流出が課題となっている地域において、創生の核となる「ひと」の地域への定着がなされている。

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
大学のマネジメント(運営管理)体制の充実・強化に関する目標	<p>意思決定プロセスの整備・迅速化 適切な職務分掌に基づいてそれぞれの権限を明確にするとともに適切な権限の委譲を図ることにより、意思決定のプロセスが整備され、重要な決定事項も遅滞なく迅速かつ適正に行われている。</p> <p>教学マネジメント体制の充実 教育の質保証等を目指す教学マネジメントが適正に機能するための体制が確立されている。また、個別に生じた課題に対しては、必要に応じて各種ワーキンググループ等を結成して迅速に対応することができる体制になっている。</p> <p>大学事務業務の効率化 計画的なSD(スタッフ デベロップメント)が実施され、各職員の事務処理能力・企画立案力が向上するとともに、業務の見直し・改善が進み、業務効率がアップしている。</p> <p>危機管理体制の整備・運用 学内の危機管理体制が構築され、防災対策をはじめ不測の事態への対策が整備され、教職員・学生にとって安全・安心な環境が提供されている。</p> <p>適正な学部学科構想の検討 外部評価機関等の活用により入手した、大学・学部・学科の社会的評価、社会のニーズ等に関する客観的な情報に基づいた適正な学部学科構想についての検討が行われている。 【再掲有り その他】</p>
教職員の人材育成・確保に関する目標	<p>教員対象の組織的FD活動による人材育成 授業公開やアンケート結果の反映など、従来の教員対象のFD(ファカルティデベロップメント)活動だけでなく、より有効で組織的なFD活動を通して、教員各自が自律的かつ積極的に教育の質および教育力を高める努力をしている。</p> <p>専門性、年齢、性別等の構成を考慮した計画的な人材確保 戦略的な学科構想と連動した教員の採用計画が立案されており、かつ学部・学科において専門性・年齢・性別等の構成を考慮した教員採用が進み、全体的に適正な構成が保たれている。</p> <p>教職員の自己点検制度の確立・運用 教職員を対象とした自己点検制度が導入され、各自に対して適切な目標が設定されることにより達成度や課題が明確になるとともに、それぞれの人材育成プログラムに反映されている。</p> <p>職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成 職員対象の体系的なSD活動が適正に実施されており、企画力、提案力、情報収集力など、大学職員として必要な専門性を有する職員が増え、計画的な人材育成が進んでいる。</p>

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
内部質保証システムの構築・運用に関する目標	<p>実効性のある自己点検評価体制の整備・運用 実効性のある自己点検評価体制が整備され、ビジョンをはじめ、ビジョンを達成させるための中期目標、計画の進捗状況が定期的に点検評価され、PDCAサイクルが適切に機能している。</p>

(教育研究環境項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学生生活の支援対策の整備に関する目標	<p>キャンパス整備 「安心・安全」、「癒し・憩い」、「活気」をキーワードとしたコンセプトに基づいたキャンパス整備が進み、喫食環境・コミュニケーションスペース等の整備など、機能的で競争力のあるキャンパスになっており、学生に対して満足度の高い教育環境が提供されている。</p>

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
戦略的広報対策に関する目標	<p>学生募集のための効果的な広報対策 大学の認知度や総合的評価の向上などの外部環境の改善や限られた資源を有効的に活用した学生募集のための種々の広報活動により、志願者数が定員の2.5倍を超える状況が継続している。</p> <p>一般広報対策 学内の情報を学外へタイムリーかつ効果的に発信する(適切な広報)とともに積極的な情報公開を進めて大学の社会的責任や透明性の確保に努めることにより、大学のブランドイメージの確立や認知度・社会的評価の向上につながっている。</p> <p>高大連携事業の推進・拡充 本学と教育提携を結んでいる高等学校で構成されている「千葉科学大学高大連携推進協議会」が中心となって、継続的に開催されている「高大連携教育研究交流会」を通じて、高校および大学の教員、生徒、学生の間で活発に意見・情報交換が行われており、高大連携の成果が共有されている。</p>
入学者の確保・退学者の等の減少に関する目標	<p>優秀な学生の確保・入学者数の増加 戦略的な広報対策や成績優秀者に対するインセンティブ制度、入試改革への対応などの成果が実を結びつつあり、国内外の志願者の増加や一般入試入学者数が増加し、入学定員を満たす状況が継続しているだけでなく、選抜機能が働いて優秀な学生が一定の割合で確保されている。</p> <p>退学者減少のための対応整備 総合的な学生支援策が奏功し、やむを得ない事情による退学者等を除いて、退学者、除籍者、休学者などが減少している。</p>

(その他項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
大学のマネジメント (運営管理)体制の充実・強化に関する目標	<p>適正な学部学科構想の検討 外部評価機関等の活用により入手した、大学・学部・学科の社会的評価、社会のニーズ等に関する客観的な情報に基づいた適正な学部学科構想についての検討が行われている。 【再掲】</p>

岡山理科大学附属高等学校アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
人材育成と教育力に関する目標	<p>生徒が持つ、資質や能力を十分に伸ばすとともに、サイエンスとグローバル教育を推進する。 生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立及び、基礎・基本的な知識や技能を高め、精神と身体の高揚を喚起し、一体感のある教育を実施するとともに、学力の定着と個々の成長に努める。</p> <p>生徒一人ひとりのニーズを把握し、きめ細やかな実践型指導を推進する。 教員一人ひとりが、教科教育の専門性を高め、授業の質的改善を行い生徒の基礎・基本的な学力を定着させ、生徒に応じた細やかな教育指導を行うと共に、アクティブラーニングなどの実践型教育の充実を図り、生徒が意欲的に学習できる環境に努める。また、ICT教育も充実させ教育の活性化に努める。</p> <p>リーダーシップやチーム力を発揮できる人材を育成する。 生徒の可能性を引き出し、自らの力で考える思考力とコミュニケーション力による協調性を養い、プレゼンテーションなどの実施で、自信を付けさせ、生き生きとした人材の育成に努める。</p>

(学生支援項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
正課外活動支援	<p>正課外活動に対する支援 精神と身体の高揚を喚起一体感のある教育を実施するとともに正課外活動を通じて社会が求める人材育成を行う。</p>
多様な生徒への支援	<p>多様化する生徒支援 多様な生徒に応じた細やかな教育指導を行うとともに生活指導の充実を図る。</p>

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
国際理解と国際貢献に関する目標	<p>国際化を日常的なものにするとともに、多角的な国際交流事業の更なる充実を図る。 国際理解を重点に、異文化交流を積極的に取り組み、生徒に国際的感覚を身近に感じさせるために、留学生を可能な限り受け入れ、附属高校として交流協定を締結し、海外留学制度を確立させたい。</p> <p>英語運用能力(聞く・話す・読む・書く)の向上を図るために、英語の「基礎学力」の定着及び「応用学力」の伸長に対応できる指導法を工夫する。 英語能力を向上させるために教科書のみならず、本校の特色になるように、イングリッシュ・キャンプや4技能の優れたケンブリッジ英検等の導入を図り、英語でのコミュニケーションが可能な環境も目指したい。また、国際バカロレアを導入し、海外への進学も検討したい。</p>

(社会・地域連携・貢献項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
高大連携・社会連携	<p>学習において、岡山理科大学との高大連携の強化を図るとともに、生徒の学力の伸長を目指す。大学と連携することにより、生徒が大学の講義等を学習することで、高等学校の単位として認定し、また大学入学に際しては取得単位と認定することで、連携の強化が期待できる。さらに生徒が大学の教育研究に触れることで、生徒一人ひとりが、能力・適性を知り自己の発見と成長に繋げたい。</p> <p>社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身に付けられるように、社会との繋がりを強化する。</p> <p>多様な社会体験は、社会人として必要な知識や技術を身につけ、家庭や学校だけでは身に付けることができない様々なルールや社会慣習について学ぶことができる。学習の場として重要な意味を持っており、家庭や学校の教育力と地域の教育力を連携しながら、社会で生き抜く力を養わす。</p>

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期計画	中期計画
組織力の向上	<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指す。教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有しながら、毎月1回の運営会議や教科会議などを恒常的に開き、協議した内容を職員会議で諮る強力な組織を作る。さらに、校務組織を簡素化し全員が校務運営に参画し意識の向上に努める。</p> <p>学校運営が円滑になるように、チームリーダーの養成や研修を実施し、それが全体へ波及するような仕組みを考える。</p> <p>学校現場で必要となるリーダーシップ性を向上させるために、各種の研修やワークショップ等に出向き、個々のスキルアップを図り、組織の一員として自己を確立させたい。</p>

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
内部質保証システム体制確立と第三者評価の導入	<p>教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有しながら、毎月1回の運営会議や教科会議などを恒常的に開くとともに自己点検及び外部評価を実施する。</p>

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
経営基盤の安定化に関する目標	<p>生徒を安定的に確保するために志願者の増加を図る。</p> <p>教育活動並びに教育内容を多角的に伝え、附属高校としての信頼を得るためにブランディングを定め、広報活動の充実を図る。また、部活動は広報的要素が大きいことから、教育と併せて広報活動を実施する。さらに経営状況の分析を行い収支バランスの健全化を目指し、全国に広く媒体を活用し展開する。</p> <p>補助金など学外資金の獲得を強く推進する。</p> <p>生徒を安定的に確保することにより、補助金の交付率も高くなり安定経営に繋がる。また、SSHなどの外部資金を獲得することで、教育内容を広め、生徒の学習意欲を高揚させ募集活動が幅広く展開できるように努めたい。</p>

岡山理科大学附属中学校アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
人格形成と学力育成に関する目標	<p>①生徒に対して、立志三風と生活三則を継続的に推進します。 立志三風を柱とし、その実現に向け生活三則を厳守させ、人格形成に努めます。</p> <p>②生徒一人ひとりを尊重し、お互い協力できる生徒作りを推進します。 生徒一人ひとりが、それぞれの人格を認め、人権を尊重しながら、協調性のある豊かな心と生きる力の育成を目指す。生徒会活動の充実により自主的・実践的な態度を育成し、また、道徳教育の充実によって自己や集団のかかわりなどの人間性を高めます。</p> <p>③学力を定着・向上させるための、学びの習慣化を推進します。 国際的な視野を持ち、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できるように、普通の授業はもちろんのこと、帰りの学習や自習教室などをおし、学びを習慣化させることで、学力の定着・向上に努めます。</p> <p>④学力を向上させるための、教授法を推進します。 生徒に、わかる喜びを実感させる授業を行い、学習意欲を継続できる授業法の展開に努めます。具体的には、アクティブラーニングや ICT を利用した授業方法、評価方法などの研修を通じて教員の指導力向上を図り、各業務分掌、教科などでの会議、ICT による情報共有などを通じて、全教職員の意思疎通を図れる体制を作るとともに「学びの習慣化」への指導を充実します。</p>

(学生支援項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
生徒支援体制の強化に関する目標	<p>①入学から卒業までの支援体制の強化を構築します。 教職員・保護者が生活記録ノートを活用して家庭との連絡を密にし、学校からの情報も様々な形で定期的に提供し、信頼充実を進める。さらに学校自己評価などの結果を踏まえ、教育活動の改善を図りながら、生徒個々のサポートが体系的に実施できる体制の強化に努めます。</p> <p>②社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身に付けられるように、社会との繋がりを強化します。 多様な社会体験は、社会人として必要な知識や技術を身につけ、家庭や学校だけでは身につけることができない様々なルールや社会慣習について学ぶことができます。学習の場として重要な意味を持っており、家庭や学校の教育力と地域の教育力を連携しながら、社会で生き抜く力を養います。</p>

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
国際理解と国際力向上に関する目標	<p>国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。 生徒に対して、国際感覚を養わせるためネイティブ教員による授業を発展させる。またケンブリッジ英検等の教材を使用し語学力の向上を図るとともに、現在行っている実用英語検定を継続しながら、他の試験も取り入れ個々の能力の向上に努めます。</p>

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
組織力の向上に関する目標	<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指します。 教育への信念を明示し、教員のベクトルをそろえ、意欲を高める感化力と統率力を持った資質の向上に努め、教員集団としての組織的な教育力を向上させます。</p>

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
内部質保証システム体制の確立と第三者評価の導入	内部質保証システム体制の確立と第三者評価を導入します。 学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織を作るとともに自己点検及び外部評価を実施します。

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
志願者増加への方策に関する目標	<p>情報提供を一層強化します。 オープンスクールなどの参加者の多くは、小学校からの配布物で情報を得ていることから、定期的に小学校へ情報を提供し、参加者の増加を図ります。 また、ホームページや FaceBook、進学情報誌などを利用し、本校の特徴やイベント情報を定期的に発信します。</p> <p>塾との信頼関係をより一層強化します。 進路相談も行う塾との関係も必要不可欠であり、特に塾同士の連携が強いことから、今まで以上に情報交換をこまめに行い信頼関係を強化します。</p> <p>イベントの内容を充実します。 オープンスクールなどのイベントで、本校の教育力などを、児童・保護者の方に理解いただくために、内容を充実させます。</p> <p>入試制度を検証します。 多様な力を秘めている児童ひとりひとりの力がはかれるように、入試制度を見直し、改革します。また、オープンスクール参加から入試出願まで受験者の便宜を図るため「web 出願」導入を予定しています。</p>

岡山理科大学専門学校アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
社会人基礎力養成教育に関する目標 1年次中に「キャリア教育」を体系化する。	社会人基礎力養成教育に関する目標を達成するための計画 (1)入学直後から職業人意識を育む講演を慣例化し、「キャリアデザイン」の履修を図る。 (2)全学生に「キャリアマナー」の履修と特定学科での「キャリアデザイン」の履修を体系化する。
専門教育の充実に関する目標 学科毎に職業に直結した専門知識・技術・技能を持った人材育成のために、教育課程編成の再構築を行う。	専門教育の充実に関する目標を達成するための計画 (1)職能団体の要請と技術の進化に伴い、カリキュラムを弾力的に編成し、逐次教育内容の見直しを行う。 (2)事業現場の中核を担い、現場レベルの改善・革新を牽引できる人材を養成するために、学生参加型の授業展開を推進する。 (3)多様な校外実習と現場体験により、社会のニーズを感知できるよう研修施設の開拓に努める。
専攻科と研究科の教育内容に関する目標 建築学科専攻科と動物系総合学科研究科の意義を再考し、人材目標に合ったカリキュラム編成に重点を置く。	専攻科と研究科の教育内容に関する目標 (1)専攻科と研究科は更なる技術向上を目指す為、ワンランクレベルの高い学科として位置付ける。
入学者選抜法の開発に関する目標 入学者確保のための新たな学費軽減策を検討する。	入学者選抜法の開発に関する目標を達成するための計画 (1)学科毎の受験者数に応じて、奨学生枠を付与する方法を模索する。 (2)受験者の多い学校との連携を強化する仕組みを開発する。
教育の質保証 授業アンケートの完全実施と集計・分析による授業評価を実施。 教員の質の高位平準化のための教員研修の促進。	教育の質保証の目標達成のための計画 (1)学習者目線での授業展開を目指し、常に授業改善を実施する。アンケート結果によって、授業評価を行い、改善策の指導を実行する。
教育実施体制に関する目標 学科毎の目標資格取得率を全校で共有。	教育実施体制に関する目標を達成するための計画 (1)各種資格取得率を格段に上げる。資格取得困難学生を重点的にサポートする。
関連企業・団体との連携による教育課程編成	関連企業・団体との連携による教育課程編成を達成するための計画 (1)職業実践専門課程の認定要件である「教育課程編成委員会」の年2回の開催を以て、関係業界が求める人材養成に努める。

(研究・創作項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
研究の重点化やブランド力の向上に関する目標 研究の重点化やブランド力の向上を図る。	研究の重点化やブランド力の向上に関する目標を達成するための計画 (1)各学科の教育目標と知的・物的資源に鑑み、当該業界での問題に対しての解決方法を提案していく。
附帯事業における利潤追求に関する目標 附帯事業における利潤を追求する。	(1)各資格取得の専門講座を充実させる。

(学生支援項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
修学・生活支援に関する目標 楽しい学校を先ず学生に印象づけ、欠席や中退から無縁であるよう、全校で醸成する。	修学・生活支援に関する目標を達成するための計画 (1)入学生と在校生の交流の場を増やす取り組みを模索する。
キャリア形成支援に関する目標 キャリア形成支援を行う。	キャリア形成支援に関する目標を達成するための計画 (1)正課のキャリア教育と正課外のガイダンスや講演との有機的な接続を図る。 (2)社会で活躍する卒業生の講演を企画する。 (3)全校一斉の挨拶週間、ゴミ拾い、ボランティアデーを設けることで、学生一人一人にキャリア形成の重要性を認識させる。

多様な学生への支援に関する目標 心身に問題を抱えた学生の学生生活をサポートする。	多様な学生への支援に関する目標を達成するための計画 (1)教育相談室と各チューターの懇談の場を設け、学生の悩みに向けて相互協力体制を敷く。 (2)発達障害者に対する接し方を学ぶ外部講師招聘による教員研修を増やす。 (3)身体障害者の校内設備利用の利便性を上げるための教職員研修を増やす。
正課外活動支援に関する目標 正課外活動についての支援。	正課外活動支援に関する目標を達成するための計画 (1)独自のクラブ活動や団体参加のクラブ活動の参加に努める。
学生支援体制に関する目標 学生の修学を促進する取組を行う。	学生支援体制に関する目標を達成するための計画 (1)修学困難な学生の修学支援を積極的に進める為、広報活動に努める。

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
留学生受け入れに関する目標 留学生の受け入れを行う。	留学生受け入れに関する目標を達成するための計画 (1)クラスのコミュニケーションを推進する。 (2)一人一人の学生に真摯に向き合う。

(社会・地域連携・貢献項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
地域社会交友促進に関する目標 地域社会交友を促進する。	(1)地域のボランティアに積極的に参加する。
関連機関・団体との連携・協力に関する目標 関連機関・団体との連携・協力をを行う。	(1)常に時代のニーズに合った職業人を養成する為、情報収集に努める。

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
方針に基づくガバナンス体制の構築に関する目標 学校運営・教育方針の周知徹底を図り、全教職員の共有化できる体制づくりを策定する。	方針に基づくガバナンス体制の構築に関する目標を達成するための計画 (1)「建学の理念」「専門学校校の使命」を念頭に多面的に捉えた「学校運営」「教育方針」の見直しを協議する体制を構築し、流動的な社会情勢に呼応できる学校運営に資する。 (2)方針に基づき、校長を中心とした意思決定会議を明確にし、各組織の長の権限と責任を明確にする。
教員の能力開発・評価に関する目標 教員の能力開発・評価を行う。	教員の能力開発・評価に関する目標を達成するための計画 (1)教員自己点検シートにより、主体的な能力向上を図り、自己目標とその達成度を評価する。 (2)関係機関との協力のための教員派遣を推進する。
教員の人材育成システムに関する目標 教員の人材育成システムを構築する。	教員の人材育成システムに関する目標を達成するための計画 (1)職能団体などの情報収集並びに研修先の開拓を図る。 (2)教員研修規約に則り、年間教員研修経費の予算を立てて教員派遣を推進する。

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
内部質保証システムの確立に関する目標 内部質保証システムを確立する。	内部質保証システムの確立に関する目標を達成するための計画 (1)機関評価並びに分野別評価の実施に向けて、幹部職員を研修に派遣する。また、第三者評価機関の評価に対応するために、学校評価委員会を組織する。 (2)学校自己評価に加え、学校関係者評価を行い、結果の情報公開を履行する。 (3)運営側と各下部組織の意思の疎通が図られるような対話の場と機会創出に努める。

情報の収集と分析に関する目標 情報の収集と分析を行う。	情報の収集と分析に関する目標を達成するための計画 (1)学会、研究会に積極的に参加する。 (2)自治体、団体の会議に参加する。 (3)職業実践専門課程での会議を積極的に活用する。
-------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

(教育研究環境項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
教育・附帯事業環境の充実に関わる目標 教育環境のチェックにより、安全で快適な教育環境を目指す。	教育・附帯事業環境の充実に関わる目標を達成するための計画 (1)既存建物の耐震診断を実施し、結果次第で年次計画を立てて、改修・補修工事等の実施を実現する。 (2)施設・設備、備品の老朽化をいち早く察知し、最新の設備の導入に向けて、整備計画を策定し逐次実施する。 (3)校内禁煙策を協議し、快適でクリーンな校内環境を目指す。
安全衛生管理体制の構築に関わる目標 安全衛生管理体制を構築する。	安全衛生管理体制の構築に関わる目標を達成するための計画 (1)教職員・学生の安全意識の啓蒙に努め、防災委員会の中に環境アセスメントを導入し、安全管理体制の強化を目指す。 (2)ユニバーサルデザインの追求により、全学生及び外来者が利用しやすい施設整備を推進する。

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
財務基盤安定化に関する目標 教育の基盤は安定した財務状況に起因することを校内統一見解として、各自が財務安定化に向けて目標を持つ。	財務基盤安定化に関する目標を達成するための計画 (1)人件費率の安定化(60%)を図る。 (2)教育研究費の削減には限界があり、在校生数に比例した経費の予算組を立てる。 (3)収支の改善を実施する。
広報・ブランディング戦略に関する目標 広報・ブランディング戦略	広報・ブランディング戦略に関する目標を達成するための計画 (1)地域の自治体、団体の動向を的確に把握する。

(その他項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学科再編・新設、新事業展開と専門職大学移行への手続きに関する目標 文部科学省が制度化する専門職大学は、専門学校を取り巻く客観情勢を分析して研究を進める。	学科再編・新設、新事業展開と専門職大学移行への手続きに関する目標達成のための計画 (1)文部科学省が制度化する専門職大学は継続して研究する。 (2)専門学校の特徴である地域のニーズに対応した柔軟なカリキュラムを活かし、職業実践専門教育の充実に努める。

玉野総合医療専門学校アクションプラン (教育項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
充実したカリキュラム整備に関する中期目標 国家資格取得を目指し、医療の現場で活躍できる人材を養成するため、法令に基づいたカリキュラムを充実させる。	法令に基づいたカリキュラムを充実させる計画 (1)各養成施設基準に対応するため、カリキュラムの精査・改定を行う。 (2)国家資格取得に関連する専門科目の内容精査及び充実を行う。また実務家教員の配置を行う。 (3)医療の現場に限らず社会で必要となる基礎知識を習得させるため、基礎科目の内容精査及び充実を行う。 (4)実習を通して知識を深めることが出来るよう、充実した実習計画の作成を行う。
入学者選抜方法の検討に関する中期目標 各学科並びに各職種において求める人物像や目的意識をしっかりと持った学生を受け入れるため、入学者選抜方法の検討を行う。	入学者選抜実施と入試方法の計画 (1)大学入学者選抜実施要領に準じた選抜方法の実施を検討する。 (2)入試方法の妥当性の検証を行うため、入試区分による在学生の成績追跡調査を行う。
教育の質保証に関する中期目標 教育活動の質や学修成果の水準等を保証するため、多面的に自己点検評価を行う。	教育の質保証の達成のための計画 (1)教育活動、学修成果などに関する自己点検評価を定期的に行う。 (2)授業アンケートを定期的に行い、集計結果の内容をフィードバックさせ、改善に努める。 (3)教員間による授業観察を定期的に行い、教授方法に関する考察を行う。 (4)教員と個人面談の機会を設けるため、チューター制度の導入をおこなう。

(研究・創作項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
研究の推進に関する中期目標 教員の研究活動を推進し教育効果を上げることに繋げるため、個人研究費の配分を行う。	研究の推進と研究力の向上を図る計画 (1)各年度において適切な研究計画が実行されるよう、研究計画及び予算計画に基づき配分を行う。 (2)各年度において研究成果の発信を行うため、紀要の発行を行う。

(学生支援項目)

アクションプラン	
目標	中期計画
学生支援に関する中期目標 学生及び保護者との面談の機会を設け、個々の学生が抱える問題に対処するための取組を行う。	学習支援と就職支援体制を強化する計画 (1)学校生活や家庭での状況などを情報共有し、学生の変化に即応できるよう最適な時期に教育進路懇談会を実施する。 (2)講義内容への理解が不十分な学生の理解度を高めるため、授業の前後、放課後等を利用し、個別相談や個別指導を行う。 (3)国家資格の合格率を高めるため、通常の授業に加え、過去の出題傾向などを考慮した対策講座などの実施を行う。 (4)国家試験対策
生活支援に関する中期目標 充実した学生生活を送るため、課外活動、通学支援や各種奨学金のサポートなどの支援を行う。	生活支援の体制を構築する計画 (1)各部活の活動が十分に行えるよう設備支援、人的支援、金銭的支援を行う。 (2)地域との交流を目的としたボランティア活動の支援を行う。 (3)多様な学生を積極的に受け入れるため、スクールカウンセラー等による相談しやすい体制を整える。 (4)在校生の生活環境を調査し、公共の交通機関以外による通学方法の選択肢を提供する。 (5)経済的理由により修学の機会が損なわれないよう、各種奨学金支援制度の内容紹介を行う。

(国際化項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
国際交流事業の推進に関する中期目標 国際理解を深めるため、本学園と教育交流協定を締結している海外の同世代学生と交流する。	異文化理解を深めるための計画 (1)ライト大学やフィンドリー大学など、訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施する。
海外研修の推進に関する中期目標 海外の医療系大学等における教育内容を体験するため、参加希望者を募り長期休業中に海外研修を実施する。	学生の留学の機会を推進する計画 (1)本学園と教育交流協定を締結している大学を中心に海外研修行事を実施する。

(社会・地域連携・貢献項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
地域貢献・社会連携活動に関する中期目標 地域との関りを深めるため、各種イベントへ教職員が参加し交流の機会を設ける。また本校の教育内容を活かし、医療に関する最新情報を提供するため公開講座を実施する。	地域との連携強化を推進する計画 (1)地域のイベントへ教職員及び学生が参加し、地域の方々に本校の教育内容を理解してもらいながら交流を深める。 (2)本校の教育内容を公開講座を通じて紹介するため、医療に関するテーマの公開講座を年間約3回実施する。

(組織・運営項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
学校運営組織と基盤の確立に関する中期目標 学校運営に関する全学的事項を定めるため、各種会議により検討を行い方針の決定を行う。	組織力の向上を図る計画 (1)学校運営に必要な方針を決定するため、定期的に各種会議を開催し、教職員の意識の統一を図り、学校運営の向上を行う。

(内部質保証項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
自己点検評価、第三者評価に関する中期目標 教育の質向上を目的とし、自己点検評価の実施並びに第三者評価体制の導入を行う。	内部保証の確立に向けた計画 (1)自己点検評価制度の確立を行い、教職員の意識向上を継続的に維持するため、点検評価を毎年実施する。 (2)内部質保証を適切に実施するため、自己点検評価の内容など第三者から評価を受ける体制を導入する。

(教育研究環境項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
教育研究環境に関する中期目標 養成施設指定基準に基づいた教育環境維持のため、計画的に実習設備等の見直しを行う。また、自主的に学習に臨む学生のための環境整備を行う。	学習効果の向上をのための計画 (1) 養成施設基準やカリキュラム改定に基づき、教育に必要な実習設備等の維持及び整備を定期的に行う。 (2) 自主的に学習に臨む学生をサポートするため、専門分野に関連した図書の購入を行う。また蔵書検索や無人貸出を行っている図書館システムの見直しを行う。 (3) 講義やレポート作成の環境を整えるため、パソコン教室のシステムやソフトウェアの整備を定期的に行う。

(運営・財政基盤項目)

アクションプラン	
中期目標	中期計画
財政状況の安定化に関する中期目標 安定した学校運営を行うため、収入増加及び支出減少に必要な取り組みを行う。	財政基盤の安定に向けての計画 (1) 安定した収入を維持するため、学生募集活動を強化し、入学定員を確保することで学納金収入を増加させる。 (2) 退学による収入減少を抑えるため、担任を中心とした学生指導に取り組む。 (3) 経費削減のため、見直しが可能な契約内容や取組内容がないか、毎年内容の精査を行う。
情報発信力の強化に関する中期目標 教育活動の内容や受験生が求める情報の発信強化を行う。	広報活動に向けての計画 (1) 広告掲載やホームページ・SNSなど、メディアごとの反応状況を分析し、効果的な情報発信方法に予算等を投じる。